

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策など）																					
1. 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、3年間・5年間を見通した学力・技術の向上を図るとともに、国家試験全員合格を目指す。	① 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことにより、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	「先生は、考えたり、文字や発言等で表現したりする機会を設けている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	1年生 71.7% 2年生 85.0% 3年生 90.8% 専攻科 83.1% 全校 82.2% B	全校の肯定評価は中間評価と同数だった。1・3年生で肯定評価が増加した。感染症対策を講じながら、ペア・グループ活動等で思考した内容を表現する場面を取り入れた。 今後、主体的・対話的で深い学びに繋がる課題解決型の学習やICTの活用を一層推進し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。																					
	② 協働して課題の解決などに取り組む学習活動を通して自ら学ぶ意欲を高める。	「自分の考えを文字や発言で表現したり、他者の意見をしっかり聞いたりしている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	<table border="1" data-bbox="1099 708 1384 1066"> <thead> <tr> <th></th> <th>表現</th> <th>聞く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>64.5%</td> <td>92.1%</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>75.8%</td> <td>98.5%</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>71.1%</td> <td>96.1%</td> </tr> <tr> <td>専攻科</td> <td>67.9%</td> <td>96.1%</td> </tr> <tr> <td>全校</td> <td>69.6%</td> <td>95.6%</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>D</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>		表現	聞く	1年生	64.5%	92.1%	2年生	75.8%	98.5%	3年生	71.1%	96.1%	専攻科	67.9%	96.1%	全校	69.6%	95.6%	評価	D	A	「自分の考えを表現している」の全校の肯定評価は中間評価と比較し2.3%増加した。特に、3年生・専攻科生が増加している。病院実習・介護実習での経験や既存の知識を活用し思考を深める、ペア・グループ活動、発表の場面を取り入れた。 また、「他者の意見をしっかり聞いている」の全校の肯定評価は中間評価と比較し2.1%減少した。今後、ペア・グループなどで協働して課題解決を図る機会を適切に設定するとともに、D評価である表現についての改善策として、他者によりわかりやすく伝える表現方法を指導していく。
		表現	聞く																						
1年生	64.5%	92.1%																							
2年生	75.8%	98.5%																							
3年生	71.1%	96.1%																							
専攻科	67.9%	96.1%																							
全校	69.6%	95.6%																							
評価	D	A																							
③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	【衛生看護科】〈本科〉 偏差値40未満の生徒数が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。	<1年生> 0人 A <2年生>	<1年生> 五年一貫校看護模試の結果は、全国1位/28校(1,068名)学校偏差値60.3であった。個人順位については、クラス内での成績に開きがある。今後も個々に応じた学習課題を設定し、更なる学力の向上に努める。																						

		<p><専攻科> 偏差値40未満の生徒数が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。</p>	<p>0人 A</p> <p><3年生> 0人 A</p> <p><専攻科1年> 0人 A</p> <p><専攻科2年> 1人 B</p>	<p><2年生> 五年一貫校看護模試の結果は、全国1位/32校(1,187名)学校偏差値62.4であった。個人については、クラス内での成績に開きがある。今後も個々に応じた学習課題を設定し、更なる学力の向上に努める。</p> <p><3年生> 全国専門基礎「①人体の構造と機能」「②疾病の成り立ちと回復の過程」の模試の結果、総合98校中(5,708名)学校順位5位であった。また、①の偏差値は62.7、②の偏差値は54.3でありいずれも偏差値40を下回る生徒はいなかった。</p> <p><専1年>看護模試(基礎力模試:1月実施) 総合偏差値66.7(人体68.2、病態65.2、基礎看護58.3)、偏差値40未満の生徒0人、40台が4人。概ね、基礎・基本的な知識の定着がみられる。事例演習や臨地実習を重ね知識・技術を活用させ臨床判断力を高めていく。</p> <p><専2年>看護模試(1月実施) 総合偏差値54.5、偏差値40未満の生徒1人。確実な模試の見直し、グループ学習、全体・個別補習による弱点補強等、国家試験基準内容の定着に全員に向けトレーニングを重ねた。2月の国家試験に全員合格した。偏差値40未満の生徒1人については、早期の段階から苦手分野を洗い出してその弱点を克服していく。</p>
--	--	--	---	--

	<p>④ <1、2年生> 毎日の課題をチェックすることで、家庭学習を習慣化する。</p> <p><3年生> 分野ごとの小テストや個別指導を実施し、専門知識の確実な定着を図る。</p>	<p>【健康福祉科】<1、2年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。</p> <p><3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率 65%以上の生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。</p>	<p><1年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が 98.0% B</p> <p><2年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が 99.4% B</p> <p><3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率 65%以上の生徒の割合が 100% A</p>	<p><1年生> 中間評価では90%とC評価であったが、現在はほとんどの生徒が課題を提出している。課題をすること＝学習習慣の定着であり、その必要性を理解してきたことによる結果である。今後も進路を意識させながら、先を見通した学習の必要性について説明し、学習習慣の定着を図っていく。</p> <p><2年生> 中間評価では99.3%でB評価であった。今回0.1ポイントアップしており、家庭学習が習慣化してきている。今後も学習習慣が継続し充実するように、学習内容を検討しながら学力の向上を目指していく。</p> <p><3年生> 1月の演習では78.9%であった。問題文や事例文をしっかりと読んでいないことによる結果であったため、1月からの不得意分野別グループ補習では、一人ひとりの知識の定着と文をしっかりと読む習慣づけを行った。その結果、介護福祉士国家試験全員合格を果たした。今後も演習後の分析に基づく対策を立てた学習を進めていくことにより、全員合格を継続していく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>評価の仕方として肯定評価のABを色分けすると本当の意味での評価が見えやすい。後半は4段階評価で見やすくなった。評価項目が固定化されている。教員でなく生徒が評価したい項目に変える検討も。コロナ禍での国家試験の取り組み心配。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>国家試験に向け、より力をつけられる模試の実施、生徒の力の底上げをする。Wi-Fi環境などが整うので、ICTを活用し学習効果向上を図る。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策など）
2) 本校の学びを通して、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身とコミュニケーション力の育成を図る。	① 「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について「大いに高まった」と「高まった」の回答が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	冬休み明けアンケートの結果「いじめを許さない意識」が「大いに高まった」と「高まった」の回答は 大いに高まった 54.5% 高まった 39.6% 94.3% B	「意識が高まったのはどのような時か」の質問に授業（128人）、講演会（49人）、実習（38人）学年集会（18人）が挙げられた。「意識が高まらなかった」理由には「身近にいじめがない」「いじめを考える機会がなかった」「意識は元から高い」の回答があり、「いじめのない環境」が日頃の教育活動によって作られていることが分かる。今後も「いじめを許さない意識」を考えさせ、ネット上の見えないいじめにも注意し、いじめの撲滅を図る。今年度はコロナ禍のニュースを通していじめを考える機会を得たという回答もあった。
	② 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	12月の保護者アンケートの結果「立ち止まって挨拶ができています」の回答の割合は 82.5% B	新型コロナウイルスによる年度当初の休校により1年生への挨拶指導が後手となった。これまでは4月から2、3年生が範を示すことにより立ち止まっての挨拶が実践されていた。2学期以降は生徒会執行部の呼びかけもあり改善が見られた。今後も生徒自身に自覚をもった身なりや振る舞いをするように考えさせ、全員が誇りをもって立ち止まっての挨拶が積極的にできるよう指導していく。
	③ 自発的な部活動にするため時間管理能力の向上、コミュニケーション力の向上を図る。	アンケートにて「活動日にはほぼ参加できた（時間を区切り参加した場合も可）」と回答した生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	ほとんど参加できたと答えた割合が、90%以上であった。 A	A評価であり、一定の成果は上げることができた。しかし時期により実技試験や行事などにより参加率の低い時期があることは否めない。生徒会を通じて啓発活動を行うことも、実際には難しかった。今年度は新型コロナウイルスによる休校期間もあり、例年に増して慌ただしかった。次年度継続することを考えれば、部活動活性化のために施策を考える必要がある。

	④ 心身が健全で粘り強い生徒の育成を目指し授業、部活動、学校行事等を通し5分間走、全力走を行う。	秋の記録が春より向上している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	216名中164名が春より記録が向上した。 76% B	新型コロナにより実質6月から学校が開始し、体力の低下・暑さの始まり・5分間走の授業でのウエイトを考え、3分間走に変更を余儀なくされた。しかし生徒は体力向上の必要性を感じ、全ての生徒というわけにはいかないが意欲的に取り組んでいた。まだ1年目なので来年度も取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒が5列ほどに広がって通学したり、挨拶しなかったりする生徒がみられ、昨年度と比べ気になる。 先生方の指導努力は見えて、ありがたい。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	看護・福祉の心を育てる指導は継続する。キャリアパスポートを利用し、将来を見据え目的意識をもって学ぶ生徒を支援していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策など）
3 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 体験入学、学校説明会の内容を充実させるとともに情報誌やホームページなどを活用し本校の教育活動とその成果の広報を強化する。	一般入試の志願倍率（学校倍率）が1.10倍を A 上回った。 B 同程度だった。 C 下回った。 D 大きく下回った。	衛生看護科 1.43倍 健康福祉科 0.63倍 1.02倍 C	衛生看護科は高倍率を維持、健康福祉科は昨年度と比較し0.1倍増加したが、定員を満たすことができなかった。 新型コロナウイルス感染症への対応に奮闘する看護師・介護福祉士の姿や専門職としてのやりがいなどを伝えた。また、本校が地域の医療・福祉に貢献する人材を育成している点を説明した。 本校での学びや生徒の生き生きとした様子が伝わるように、ホームページ、各種説明会の説明内容の充実を図る。

	<p>② 体験入学、学校説明会、出前授業、生徒の母校訪問などを通して、衛生看護科の魅力を発信する。</p>	<p>体験者アンケートで「5年一貫教育での看護師養成の関心が高まった」の回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。</p>	<p>学校説明会（11月） 100% A</p>	<p>11月に中学生及び保護者対象に学校説明会を実施した結果、参加者151名中、大変理解が深まった130名(86.1%)、だいたい理解が深まった21名(13.9%)であった。 今年度は、行事等がなく、地区説明会のみアンケート結果となった。今後は、5年一貫教育における看護師養成の魅力について様々な方法を検討し積極的に発信していく。</p>
	<p>③ 出前授業や地域との交流会・講習会を通して、健康福祉科に対する理解を深める。</p>	<p>健康福祉科に対する理解が深まったという人数の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 である。</p>	<p>健康福祉科に対する理解が深まったという人数の割合が 100% A</p>	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で出前授業や地域交流がない状態が続いたが、12月と1月にそれぞれ1校の出前授業の依頼があり実施した。2校96名の小学生の全員から出前授業により健康福祉科に対する理解が深まったとの回答を得た。今後、外部との交流状況がわからないため、接触がない状態での田鶴浜高校（健康福祉科）のアピール方法についても検討し、進めていく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>我々の生活になくてはならない職種を育てる学校である。女子寮はあるが、男子に関して県に要望を。志願者の増加を図るためにも地元でも支えたいと思い、町会で下宿などのお世話を検討している。 医療従事者へのメッセージ記事のように本校の更なる魅力発信を。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>寮に関して県には引き続き要望していく。メディアの活用、地域への回覧板など、あらゆる方法を用い、本校の魅力を発信していく。 コロナ禍で出前授業などは実施しにくい状況が予想されるが、オンライン、タブレット等を利用した交流を考える。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策など）
4: 教職員の業務改善の意識を高め、多忙化の解消に努める。	① 時間外勤務を減少させるため、業務分担の適正化を図る。	<p>具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合が、</p> <p>A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 である。</p>	<p>一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合が、</p> <p>70.6% A</p>	<p>4月、5月が臨時休業であったことや、いくつかの大会や行事の開催が中止または規模を縮小しての開催、オンライン開催になったことで、全体として時間外勤務が減少し、このような結果となった。今後は、時間外勤務減少に対する教員の意識改革がさらに進むようにする。</p>
学校関係者評価委員会の評価		<p>国家試験に向けた丁寧な支援ありがたい、先生方の頑張りを激励したい。それが超過勤務に繋がるのは心配。</p>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<p>今年度は、休校と行事や生徒の大会試合の中止で引率等がなく、超過勤務時間は減っている。業務改善を見つめ直していく。</p>		